



## 図書館サービスを活用して市場調査～新ビジネス企画へ 企画書作成ワークショップセミナー“図書活Cafe”スタート！

### 学んで、体験して、図書館の力を実感！

3月3日に中央図書館にて開催された図書活Cafe。ものづくり企業の経営者や社員など14名が参加した。第1部は図書館の仕事に役立つサービスについて中央図書館の西尾恵一氏から紹介。一般には流通していない各種統計の経年資料や法律関係・自然科学系・社史のほか、高額な企業情報や業界情報・各種データベース・ネットで拾えない資料などを無料で入手できることに、参加者から「知らなかつた」と驚きの声が多数あった。続いて、中央図書館の徳森耕太郎氏による案内で地下書庫見学へ。約6500m<sup>2</sup>もの広さに210万冊が並ぶ、“捨てない図書館”的地下書庫は圧巻だ。貴重書庫や保存方法などを聞くと後世へ残す大切さを実感。三輪自転車に乗って本のピックアップをする職員の姿も見ることができた。第2部は大阪産業経渉リサーチセンター主任研究員、中小企業診断士である松下隆氏による「マーケティングセミナー」。人口減少社会を迎えて、消費傾向が「モノ」中心の時代から「コト」中心の時代へと変化していることを踏まえ、今後のビジネス展開に必要な着眼点、新ビジネスの企画書や計

画書作成の流れを解説。今回はマーケティングの最初の段階である分析フェーズの情報収集方法と情報ソースを学ぶ。「図書館にあるデータベース『MieNa(ミーナ)』や『Mpac』を使えば、商圈2キロ半径にどんな人が住んでいるのか、どんな事業者がいるのか、何をどのくらい購入しているのか、他の地域とどのくらい違うのかなど市場を把握できます」と松下氏。第3部は「企画書作成ワークショップ」。いよいよ実践だ。3班に分かれてのグループワークで、各グループには、あらかじめ異なる課題が設定されている。

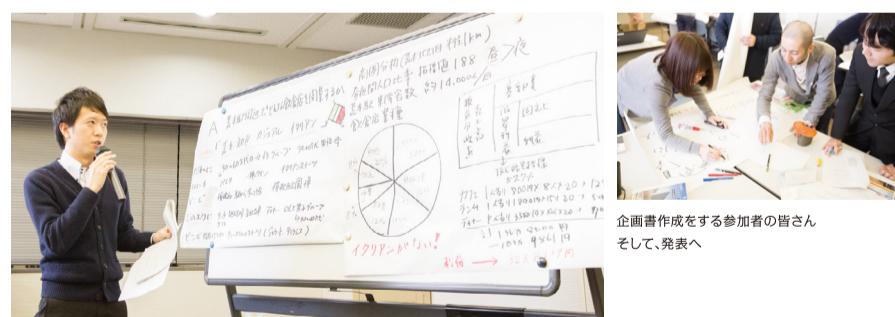
Aグループは「荒本駅周辺で飲食店を開業する」、Bグループは「制服・ユニフォーム専門のクリーニング店を開業する」、Cグループは「ゆるキャラ『もずやん』を活用した新商品開発を行う」が課題だ。まずは自己紹介から始まり、リーダー・書記・発表者・データ係と役割を決めてもらう。中之島図書館司書の小笠原弘之氏も含めた計3名の司書が各グループのサポートについた。司書に相談もしながら探してもらった資料やデータベースを元にコンセプトを絞り、企画書にまとめていく。参加者は休憩をとるのも忘れて、3時間を超えるグループワークに集中した。



グループごとに課題に取り組む参加者の皆さん。

### 企画書が完成！

#### データがエビデンス。説得力のある企画書作成を



### “図書活Cafe”を終えて

参加者の皆さんからは、「テーブルクロス等のデザインをしているのですが、今日学んだことをすぐに実践してお客様の心を掴むデザインを提案していきたい」(明和グラビア株式会社 営業本部 デザイン企画・桐山幸太郎さん)、「図書館の知らなかつたサービスがわかり、参考になりました。自社商品の売り込みにあたって、調査方法や具体的なマーケティングに応用していきたい」(堺刃物素材研究所 代表 高田恒夫さん)、「独立する予定なので、開業する立地や他社との差別化などマーケティングを具体的に実践したい。司書さんにいろいろ聞いて数字の裏付けを取りたいですね」(自動車メーカーエンジニア・中村正人さん)等、の声をいただいている。

図書館スタッフも、「参加者の方が時間内で素晴らしい形にされていてホッとしました。自分達が提供した資料やデータがどのように活かされていくか、今回はそのプロセスや成果までを見せていただいた。今後の調査相談に活かしていきたいです」と、自らの存在意義を実感し、より一層の機能充実へと思いを新たにする機会となった。

図書活Cafeの取り組みを通じ、参加者の皆さんと図書館の距離は確実に縮まったようだ。

最後はグループ毎に成果発表。Aグループは荒本駅2キロ圏内の昼夜間の人口比率や乗降客数、飲食店業種を割り出し、ターゲットを選定。「荒本初!カジュアルイタリアン」の開業を企画した。単価設定や損益分岐点売上高の試算までが盛り込まれた。Bグループは「介護服専門のクリーニング店」の開業を企画。施設まるごとのクリーニングメンテナンスを提案し、介護施設の多いエリアを調べて開業場所は大阪市平野区を選定した。Cグループは商品ではなくサービスへ方向転換し、「大

阪のものづくり企業を知つてもらう社会貢献型の工場見学スタンプラリー」を提案した。過去の工場見学の年間参加者数からスタンプ帳販売での売上試算も行った。松下氏は「中小企業の強みは、するどく研ぎ澄ました現場感覚。そのセンスの信憑性を具体的なデータで証明することで説得力をプラスしてほしい。どんな情報にどんな活用方法があるか、企画を通してするために資料をどう作るか。そのための情報収集にぜひ図書館を使っていただければと思います」と締め括った。

### 図書館は地域の身近な情報蔵。

#### ものづくり企業の皆さん！

日々の業務の調べ物、新企画立案に向けたマーケティングリサーチ等、ビジネス情報の探索、収集はスムーズですか？ 今の、次のビジネス展開に、公共図書館はあなたのよきパートナーになり得ます。